

今日の焦点

厳しい戦国時代を迎える携帯電話市場

昨年から携帯電話市場は単なる音声の通信サービスから大きく変身して、携帯電話各社は激しい戦国時代を迎えている。

まず何といっても、携帯電話市場を大きく変えようとしているのは、スマートフォンである。スマートフォンは高機能携帯電話と称せられているが、従来の携帯電話にWeb閲覧、メール、電子マネー、カメラなどが付いているからといってスマートフォンではない。スマートフォンとは、公開されているOSを搭載し、インターネット機能があり、各種のビジネスアプリケーションを利用できる携帯端末のことである。

わが国では、ソフトバンクが2008年7月に発売開始した米アップル社の「iPhone3G」が最初のスマートフォンである。その後「iPhone3GS」、さらに昨年6月には「iPhone4」を発売し、昨年9月末でのわが国のiPhoneの累計出荷台数は約370万台と言われている。これに対し、NTTドコモは、昨年4月にソニーエリクソン製の「Xperia」を発売し、引き続き10月には韓国サムソン電子の「GARAXY」の発売を開始した。KDDIは遅れて、昨年11月にシャープの「ISO3」を発売した。KDDIは、このスマートフォンに基本的に通信料が無料のスカイプを利用できるようにしている。

以上のように、各社のスマートフォンが出そろって、今年はスマートフォンをめぐる各社の激しい戦いが本格的に始まる年といえよう。

NTTドコモは、昨年12月24日に、LTE (Long Term Evolution) 方式を採用した「Xi (クロッシィ)」のサービスを開始した。LTEは最大伝送速度が、下り方向100Mbps以上、上り方向

50Mbps以上を前提としたパケット通信方式で、光ファイバー並みの高速性とデータ伝送遅延が少ないことが特徴である。現在用いられている通信方式3Gと、将来実現する4Gに円滑に移行させる橋渡しの方式であるとして、LTEすなわち「長期的発展」と名付けられており、3.9Gとも言われている。

LTEの導入を進めているのは、ドコモのほか、イー・モバイルが2011年、KDDIが2012年、ソフトバンクが2013年にサービスを開始する予定である。すでにサービスを開始したドコモより遅れているが、それまでの間に各社とも速度向上のための改良を行うとしており、ドコモも当初は下り最大37.5Mbps、上り12.5Mbps程度であり、各社のサービス競争は3.9Gそして将来の4Gへ向けて長期的に続いていく。

総務省は昨年4月に、携帯電話のSIMカード(Subscriber Identity Module Card)を取り換えれば通信会社を乗り換えることができるSIMロック解除を実施すると表明した。これにソフトバンクは即座に反発し、SIMロック解除に猛反対を唱えた。結局昨年6月に総務省は、SIMロック解除の義務化は見送り、2011年4月以降に発売される端末のうち、対応可能なものからSIMロックを解除するという方針に変更した。NTTドコモはこれを受けて2011年4月以降に出荷するすべての携帯端末について、SIMロックを解除することを表明した。実はKDDIの通信方式はドコモやソフトバンクと異なっており、SIMロック解除は当面難しく、実質的にはドコモとソフトバンクの相互間でSIMロック解除が行われること

になるが、ソフトバンクは一部の端末のみに対応し、iPhoneなどは対象外としている。果たして、今年4月からドコモがSIMロックを解除することが、利用者の反応を含めてソフトバンクに対する強い圧力になるのかどうか、厳しい戦いが始まる。

昨年9月に総務省は、次世代携帯放送の委託事業者としてNTTドコモ系の「マルチメディア放送」を認定した。この携帯放送は、2011年7月にテレビのアナログ放送終了に伴い空く周波数の一部を使って、携帯電話、パソコン、ゲーム機などにニュース、スポーツ、各種動画などを提供するサービスで、総務省は全国向け放送の免許事業者を1社に絞り込む方針を示していた。この1社をめぐるドコモ系とKDDI系が競い、なかなか優劣がつかずに審議が難航し、結局電波監理審議会に判断を委ねて決めた経緯がある。サービス開始は来年4月の予定であるが、ソフトバンクはこの放送方式に対応する考えであるが、免許取得に敗れたKDDIは消極的である。しかし、この放送事業を成功させるには、携帯3社の協力が必須であり、KDDIとの関係修復が課題である。

以上のように、携帯3社間の戦いは激しさを増しているが、ほかにも、ブロードバンド伝送を中心とするイー・モバイル、日本通信などのMVNO系、UQコミュニケーションズなどのWiMAX系、ソフトバンクの支援を受けて再起を図るPHSのウイルコムなど多くの企業が、携帯電話市場でひしめき合って激しい戦いに臨んでいる。今年1年で各社がどのような成果を得るのか、厳しい戦国時代が続くといえよう。